

【地域の活性化について】

地域の活性化を図っていくために、何をしないといけないか。いろんな地域がありますが、地域もそれぞれ、人の数が減って、そして、高齢化が段々進んでいってるんだらうと思います。そういう中で、地域をどうやって活性化していくか。やはり地域に仕事があって、若い人が残れるようにしていかないとはいけません。そういう状況をつくっていくために、地域にどうやって仕事をつくっていくか。

外からお客さんに来てもらう。観光客に来てもらって、その人たちに地元でお金を落としてもらうような仕組みをつくるか、地域にある良いものを外に持って行って売って、お金を稼いで来るようなことをするか。

この地域でも有名なお酒があります。皆さんもご存知のように非常に有名で、県外でも売れている。この地域にありながら県外からお金をどんどん稼いできている。ああいう取り組みがもっともって増えてこないだろうか。それを、役場の皆さん、地域の経済界の皆さん、そういう方々と一所懸命、取り組みをすすめようとしているところです。

どうやってやっていけばいいか、答えはありません。皆さんのお話もいろいろ聞き、教えてもらいたいと思います。ただ、いずれにしても、ひとつだけ言えることは、縮こまってしまてはいけません。内向き志向じゃいけないと私は思っています。小さい町だから、人口が減っているから、高齢化が進んでいるからこそ外へ打って出て行って、外から稼いでくる力を付けなければいけないと思っています。それを一人ひとりでやるというのは、なかなか大変かもしれない。だから、県庁とか役場と、民間の方々と、手を携えて成し遂げていこうということで、この産業振興計画の取り組みをすすめようとしているところです。

地域の活性化をしていこうとする時、もうひとつの方法として、私は地域が持っているそれぞれの強みを生かしていくことがあると思っています。

地域を元気にする、県を元気にするといった時に、多くの県がよく使う手法として「企業誘致をする」という方法があります。例えば、関東の北部の県に工業団地をつくって企業誘致をやったら、あっという間に工場が来て、埋まりました。

どうしてかという、東京まで高速道路で1時間、大井の港まで1時間半くらいで行けるようになったからです。交通がものすごく便利になった。そして、そういう地域に、まだまだ土地はたくさん余っています。だから、わざわざ高知県まで企業が本当に来てくれるか。それは、なかなか大変だらうと思います。

無いものねだりをしてはいけませんのであって、高知県にもっと大きな工場があればいいのにとっても、なかなかそういう工場は来てくれないでしょう。

私たちは私たちの持っている強みというものを生かして、それでもって地域の活性化を図っていくということが重要ではないかと私は思っています。そして、産業振興計画はそういうつくりをしています。

一次産業を大切にしよう。そして、一次産業に関連していく、いろいろな加工品への取り組みが、まだ高知県は弱いので、一次産業に関連する自然環境を生かした観光というものを、もっと伸ばしていこうじゃないかと、取り組みをすすめようとしているところです。